

★ スターリ
ソの併合

二月は、ソ連科学アカデミーに招かれて約一週間モスクワに滞在したが、中国への関心が高いと云うだけに、大変忙しいスケジュールで、幾夜かをホリショイ劇場のバレエ(プリゼツカヤのアンナカレニナ)、クレムリン大宮殿のオペラ(イワン・スサニン)、コンセルヴァトワールの演奏会(ルーハのヴァイオリン、ギレリスのピアノ)などに興じたほかは、ついにユーリキー通りをぶらつく時間もなかった。

いささか閉口した私は、なんとなくロシアの世界から離れてみたかったこともあって、スケジュールの最後の二日間がフリーだったのを幸いに、エストニア共和国のタリンへ行った。往路はモスクワからアエロポートの小型機で二時間足らず、帰路は一晩の夜行列車であつた。

タリンは、バルト海に面したソ連邦エストニア共和国の首府で、天気がよければヘルシンキが海のかなたに望まれる近きにある。私にとってエストニア共和国についての知識は、リトア



ニア、ラトビアと並ぶバルト三國の一つであること、スターリンが独ソ不可侵条約の翌年、これらバルト三國を呑みこんで併合してしまつたこと、タリンは美しい古い町でソ連のなかではリニングラード以上に西欧化された小都市であること、らしいであった。

一環すると、そこに都会の尖塔や丸屋根、城壁、古い街並みが建て込みながらも、全体が調和的で屋根や壁の緑、茶、ベージュの色彩が美しい。町の中心にはドイツの商人に支配された二四一五世紀以来のハンザ同盟の商業都市の面影がそのままだ。路の店並みはアラハやタボールを思わせる。街行くひととも殆ど歩いてモスクワやリニングラードとさへまぎれかへた。

エストニアでの驚き



お雄 嶺 中 嶋

ア카데미の青年男女は、ジャズなムードのこのホテルの特別室であつた。御馳走で歓迎してくれたが、フォンテの牛肉は明らかに美味い。モネードもタリンはソ連です、と彼らは自慢する。

風景である。雪が残っている枯れた冬景色がまた実に魅力的で、なんでもない壁や小路がそのまま絵になっている。

★ 資本主義の復活? かつて、彼らはエストニアが現在、ロシア共和国のなかでもっとも西歐的であることを誇つており、エストニア語による「文化的自治」を強めて、むしろロシア人をみくたしているかのような様子が一時の来訪者で

ある私にもすくなく感づかれた。翌日、エストニア科学アカデミーの幹部たちが私を招いてくれたが、日本の科学技術、商品の質などを彼らは称賛し、モスクワよりも日本との接触を大いに望んでいた。そこでタリンには一人の日本人もいない。ただタリンには、RADIO TO日本へ来たハイチ君というタリヤンな青年がいて、彼は「ソ連を愛用しては、日本語がかりで、唯一の日本語として年花を教える」といふ。

★ 周恩来遺書の波紋

ところが、このタリンで科学アカデミーの幹部たちが開口一番私に発したのは、「周恩来の遺書をう思った」といふ質問であつた。日本の影を右の程度で中国の影を左の程度で存在しなタリンで、このような

質問に最初から出た私がびっくりしている。二月十三日付のエストニア語の新聞「ランヴァ・ハール」(民族の舌)を探してきてくれた。見ると、紙面には大きく、A Sankel Shimbun > Zhou Enlai Kirjast. と出ている。私は「周恩来遺書」については中国側が否定している記事が同じ「サンケイ新聞」に載っていることなどを説明し、同時に「サンケイ新聞」について知るかぎりを紹介したが、右の「周恩来遺書」については、タス通信特派員が「サンケイ新聞」の記事をかき取り、それをタス通信がタスに送り、それをタス通信がタスに流したことを私はすでにモスクワで知っていた。

★ 中国情報には過敏

この一例に示されるように



若荷谷の深光寺

馬野の墓は、急な細いコンクリートの坂を登り切った本堂の左手にあつた。馬野は晩年失明して不遇のうちに死んで、昔からの場所に通じているが新しい。石仏はほとんど江戸時代のもので、地蔵を刻んだものが多かったが、片ひざを立て、ほかに手をあてた観音像などもあつた。これも死者を弔つた墓標である。

日本のかたち

文・日野 耕之祐 写真・水野 昇

東京都文京区茗荷谷の深光寺は、南総里見八犬伝の書斎の左手にあつた。馬野は晩年失明して不遇のうちに死んで、昔からの場所に通じているが新しい。石仏はほとんど江戸時代のもので、地蔵を刻んだものが多かったが、片ひざを立て、ほかに手をあてた観音像などもあつた。これも死者を弔つた墓標である。

17年9月から二年間米国の大学院で研究する日本人に「全額支給奨学金(旅費・授業料・生活費・書籍代・健康・傷害保険を含む)」との「旅費支給奨学金(往復旅費・健康・傷害保険)の二種の奨学金希望者を募集して、応募資格は34歳以下で大学卒業、英語能力は5月17日に行われる試験を受ける(応募者は4月5日まで)に同

事務局に申込書を送る(1)専攻分野(2)アメリカ研究、社会学、社会・文化人類学、法律学、歴史学ほか。手続書・選考予定日所定の登録と研究計画書を4月30日までに事務局に提出。応募資格を満たす者に対し、前記英語能力試験の点数を検討し、問い合わせおよび申し込み書類は事務局へ直接送

局するか、郵便で請求する。○第31回ロマン・ロラン研究会 13日午後5時30分、労資会館会議室(国事外通訳センター)「ゲーテとロランの愛」鈴木三郎助氏。会費300円。

○カネモリ例会 16日午後6時30分、国立教育会館5階(地下鉄虎ノ門駅下車)「国語研究所30年 思い出」前園国語研究所長 岩淵悦(即席) 会費200円。

し、運賃収入も臨時に自主管理し、必要とあれば裁判所に供託し、その上で、労働